

## 自律的学習者育成のための三十戒

ランゲージセンター教育講師 石川 毅

ミステリーを読むのが好きである。ミステリーの世界には「ノックスの十戒」のように、作家が示したルールが存在する。曰く、1. 犯人は物語の当初に登場していなければならない、2. 探偵方法に超自然能力を用いてはならない、3. 犯行現場に秘密の抜け穴・通路が二つ以上あってはならない、4. 未発見の毒薬、難解な科学的説明を要する機械を犯行に用いてはならない…。これらはあくまでも指標であり、全てのミステリー作家がこれに従う必要はないが、フェアな作品を創作するにあたり参考にしている作家は多い。

ここに、ランゲージセンター教育講師（英語）として学生に接する際に大切にしてきたことをノックスのように列挙してみようと思う。以下に挙げる30の項目は、筆者が英語学習者として学んできた事柄や英語教育研究者として得てきた知見から生まれたもので、これらを学生にきちんと伝えれば彼らの学びにプラスに働くということ、この5年間で確信したのである。聞かれなくても知っていることは出来るだけ多く伝える、というのが、筆者が考える教師としてのフェアな姿勢である。

柱は3つ。A.「授業を楽しんでもらうこと。」B.「英語に関する基礎的知識を伝授すること。」C.「卒業後も継続して学べる『自律した学習者』になるためのヒントを与えること。」である。例えるならばAは「居心地の良い寿司屋に連れて行くこと」Bは「魚を食べてもらうこと」Cは「自ら魚を釣るための技術を教えること」ということになる。サムエル・ジョンソンは「知識には2通りある。1つは物事を知っているということ。もう1つは、それをどこで見つけるかを知っているということである」と言っている。後者の知識が不足した学生が多く、授業では時に筆者自身がその「学習法に関する知識を入手する場所」になり、ヒントを提示する。

**A. 寿司屋に連れて行く（授業を楽しんでもらう）**

1. 授業をヴァリエティー番組のようにセグメントに分割しテンポよく進行する（転換点でベルを鳴らす）ことで学生を楽しませる（「英語＝苦痛」というイメージを植え付けない）。01
2. トランプで座席を決める（毎回ペア/グループを変えて新鮮な気持ちで授業に臨んでもらう）。02
3. トランプで解答者を決める（緊張感と公平性）。03
4. ペアで洋楽歌詞の穴埋めをさせる（頭を英語モードにするウォームアップ。連帯感を作る。将来再会するであろう有名曲を取り上げ、その時に楽しかった授業を思い出し英語学習再開の意欲を掻き立てるための時限装置）。04

5. Today's Question (例: "When do you feel happiest?") を提示し、ペアで質問しあう時間を作る (アウトプット型のウォームアップ)。05
6. 会話をさせる際には英語でじゃんけんをさせ ("Rock-Paper-Scissors, go!")、勝った人から会話を始めさせる (クラス全体を活気づけるため)。06
7. スクリーン上に残り時間を表示する (時間制限を設けて課題に取り組みせ、完成をゲーム感覚で促す)。07
8. 頻繁に学生の名前を呼んで指名する (参加意識を高める)。08
9. 教師の英語学習上の失敗談などをユーモア交じりに話す (親近感を持つもらう)。09

## B. 魚を食べてもらう (英語に関する基礎知識伝授)

1. 間違った解答であってもプラスのフィードバックを織り交ぜながらさり気なく修正する。10
2. 日本語と英語のリズムやイントネーションの違い、強勢を置く品詞・置かない品詞などに意識を向けさせ、音読やジャズチャンツ、早口言葉を通して体感してもらう (ここでリスニング、スピーキングにおいてコペルニクスの転回を遂げる学生も存在する)。11
3. Nitacky (ニタッキー。二択の中学文法復習用プリント) を作成し、解かせる (できる学生でも90点くらいまでしか正解できない。ある種のショック療法)。中学文法をマスターすることでかなり英語が話せる/書けることを説明する。12

## C. 釣り方講座

LOHAS (Learning of High Motivation and Sustainability 高い動機付けを持ち、持続可能な学習の意。Life of Health and Sustainability をもじった、筆者の造語) な釣り人の養成である。取捨選択できるように、多くの選択肢を提示する。

### 1. 心構え編

テニスにおける素振りや試合のバランスの話をする。この二者は英語学習においては、「単語・文法学習・音読練習」と「英語を使うこと (多読、英会話)」となる。トレーニングは必要だが、それだけでは面白くない。まず試合を楽しんで、試合後の反省を胸に再びトレーニングに取り組む、という好循環を作ることが大切であることを伝える。13

### 2. 単語編

- a. 「基礎 3000 語が全読み物の約 95% を占める (Nation & Waring, 1997)」又、95% 以上の既知単語があつて初めて残り 5% の類推ができる (Liu & Nation, 1985)」という話をし、単語力を磨くための動機付けを与える。14

- b. 効果的な単語集の使い方の解説。15
  - b-1. いつも10秒で手に取れるところに置いておく。
  - b-2. 細切れ時間に行う。
  - b-3. 音楽アルバム全曲のメロディーや歌詞を徐々に（雪が降り積もるように）覚えていく時のように、頻度で攻めていく。
  - b-4. 精神衛生上、一周目は素早く読了（例文を読みものとして読むだけ。こんな単語があつたな、くらいの記憶が残ればOK）。
  - b-5. 周ごとにテーマを変える（例：CDを聴きながら精読、和英テスト、覚え辛いもののみ単語カードに転記、音読筆写etc…）。

### 3. リスニング編

- a. NHKラジオ講座とネットラジオの紹介。16
- b. 音声とスクリプトで学べるウェブサイト（ニュースで英会話、TED、ello）の紹介。17
- c. 音読の効能や種類（Repeating, Overlapping, Eye-shadowing, Shadowing, Looking up and Saying）の紹介。18
- d. ジャンル別お薦め洋画リストの配布。字幕版を観ることで英語に親しんでもらう。19

### 4. リーディング編

- a. 多読用読み物（Graded Readers、漫画、エッセイ、新聞）の選び方と注意点の解説。嫌いな食べ物を摂取しても栄養にならない（諸説あり）ように、自分が読みたいと思うものを楽しむことの大切さを伝える。又「静かな場所での6分間の読書がストレスの6割を解消する」というサセックス大学の調査を紹介する。20
- b. 近隣某書店や立教大学図書館の洋書コーナーの紹介。21
- c. 直読直解の大切さと習得方法の解説。22

### 5. スピーキング編

- a. Skype英会話の紹介。23
- b. スローイングリッシュ（ゆっくり発話することによりネイティブスピーカーの聴力に助けってもらう方法）の紹介。24
- c. 英借文（音読等のインプットを通してストック済みの脳内の英文をコピー&ペーストして発話する、英作文に替わるアウトプット法）の紹介。25

### 6. ライティング編

- a. ワイルドカード検索（クオーテーションマークとアスタリスク "\*" を用い、作成した英文の正しさを調べる検索方法）の解説。26

- b. amazon.com (US) 上のお気に入りの音楽アルバムや映画DVDに対するレビューを音読筆写用マテリアルとして使用する学習法の紹介。27

#### 7. ホットライン編

- a. 学習方法のヒントを記したプリントを配布する。28  
 b. E-mailで質問を受け付ける。29  
 c. 授業後の学習相談には時間の許す限り付き合う。30

教育講師としての初年度、予想していたほどには学習法に関する質問がなされないことに正直落胆していた。しかし、3つの柱を意識して授業を行ってきた結果、「魚釣り」に興味を持つ学生や、「新たな釣り方」を知り心機一転して英語学習に取り組む学生が増えてきた。

#### 〈釣り初心者のAさんの場合〉

プレゼンテーションの授業の後、廊下で呼び止められた。「先生、そもそも英語ってどうやって勉強したらいいんですか？」幾つかの素朴な疑問に答えながら、英語学習に於いて大切なこと（魚釣りのポイント）を話した。楽しく英語に触れた経験がないようだったので多読を薦めた（釣り道具屋の紹介）。その翌週、書店を訪れ買って来たという洋書を嬉しそうに見せてくれた。

#### 〈新しい釣り方に目覚めたB君の場合〉

TOEICの授業後、教卓にやってきた。これまで中学から予備校まで英語を習ってきて、ラジオ講座について解説されたのは筆者の授業が初めてだったとのこと。自分に合っている学習法だと思いつても嬉しくなった、紹介してくれて感謝している、と言つて興奮していた。

「魚を与えるよりも釣り方を教えた方がよい」という諺があるが、それならば「魚も釣り竿も両方差し上げましょう」というのが筆者の教師としての姿勢である。とはいえ、千里眼を持たぬ身としては、学生達が今後も英語学習を続けていつくれるのかどうかは、それこそミステリーだ。しかし筆者はそれを信じて今日も、授業中の限られた時間内で、伝えられる限りのことを伝えていきたいと思っている。

元立教大学診療所所長 篠田知璋先生に捧ぐ

いしかわ たけし

## References

- Knox, R (1929) Introduction to The Best Detective Stories of 1928-29. Reprinted in Haycraft, Howard, Murder for Pleasure: The Life and Times of the Detective Story, Revised edition, New York: Biblio and Tannen, 1976.
- 長野慶太 (2012) 『英語は恥ずかしいほどゆっくり話なさい!』ダイヤモンド社
- Nation, I. S. P., & Waring, R. (1997). Vocabulary size, text coverage, and word lists. In N. Schmitt and M. McCarthy (Eds.), Vocabulary: Description, acquisition and pedagogy. Cambridge: Cambridge University Press.
- Liu Na and I. S. P. Nation. (1985). Factors affecting guessing vocabulary in context. RELC Journal.